

病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

アンチエイジング医療センターについて

アンチエイジング医療センターは、徳島県健康課題である糖尿病や肥満症への対策を院内外で推進する中核的センターとして2008年に徳島大学病院に設立されました。メタボ健診や医療観光を通じた肥満や糖尿病のリスクをもつ方への健康増進支援、糖尿病の方に向けたフットケアや生活習慣への介入、糖尿病腎症重症化予防のための療養支援、そして先進的な糖尿病医療の開発・推進、さらには院内外の糖尿病関連医療人材の育成を行ってきました。その運営は、糖尿病や肥満症診療の中心である内分泌・代謝内科、糖尿病看護認定看護師4名を擁する看護部、そして栄養部を中心に、歯科、薬剤部、放射線科、臨床検査部等とともに組織横断的に行っています。

診療面では、持続血糖モニタリングによる血糖管理は国内最多の約300名に対して行い、インスリンポンプの導入例も国内有数です。特に最新のインスリンポンプは持続血糖モニタリングと連動し、高血糖では自動的にインスリンが注入され、低血糖ではインスリン注入が停止するもので、血糖パターンマネジメントがテクノロジーにより制御される時代となっています。1型糖尿病の方が徳島大学病院での治療を希望され、県外からも多く来院されています。当センターの豊富な経験は、日本糖尿病学会での1型糖尿病治療や重症低血糖対策の国内基準の策定に大きく貢献しています。

人材育成では、院内に糖尿病ケアチームを組織し、糖尿病リンクナースの育成や糖尿病診療のレベルアップを図っています。また、徳島県立中央病院とともに糖尿病療養指導メディカルゾーンセミナーを年4回開催し、県下の日本糖尿病療養指導士や徳島県糖尿病療養指導士に対し、最新の情報に基づくスキルアップの場を提供しています。

これからも、糖尿病や肥満症の方への診療支援、それを支える人材育成、そして最新の糖尿病治療と先端的研究を推進し、徳島大学病院での我々の活動を県下に、さらには国内外へ発信していきます。

アンチエイジング医療センター センター長 松久 宗英



先進糖尿病治療
(インスリンポンプ)の指導



糖尿病療養指導
メディカルゾーンセミナー

高木副病院長に、“おすすめの本”について寄稿いただきました

副病院長(医療安全管理担当)の高木です。読書は大好きですが、最近は、ゆっくり読書できる時間と余裕が無く、寂しい思いをしています。おすすめの本といいますが、本は奨められても、興味がわかなければ読みにくいので、参考になるかは判りませんが、少ないながら最近読んだ本で面白かったものを紹介したいと思います。

それは「ペスト」です。「カミュのペストか。」「教科書で習ったけど読んでないわ」という人も多いかと思いますが、「ペスト」でも作者はカミュではなくデフォーです。今度は「デフォー?」「誰やねん」と言う声が上がりますが、デフォーは有名な「ロビンソン・クルーソー」の作者です。彼が当時50万人の人口のうち10万人以上が犠牲になった、1665年にロンドンを実際に襲ったペストを、実際の記録も踏まえドキュメンタリー形式で作品にしたものです。というわけで、この作品は半分が実録であり、半分がフィクションです。感染の始まり、死者の増加、感染者とその家族への偏見、家屋封鎖、これは行政が監視人を付けて感染者がいる家族が戸外へ出られないようにすることです(つまり、家族が全滅しないと屋外へ出られない)。

また、郊外への脱出、ロンドン出身者への恐れなど、最近どこかで経験したような記述が続きます。さらには風評被害や怪しい治療、うまく金儲けをする人々等、300年以上昔の人間も現代人も行動パターンがほぼ同じなのは驚きました。原因の分からない中で、冷静に事実を吟味し、科学的目線の重要性も記載されています。思いがけない疫病の流行時に人間がどのように振る舞ったか、歴史から学ぶことは多くあります。

「ペスト」の中ではこの疫病は理由なく収束していきます。今回のコロナ禍も収束が見え始めているような気がします。ヨーロッパ中世のペストも近代化の中で人間の意識に多大な影響を与えました。今回のCOVID-19パンデミックも、何か以前とは違った時代の始まりとなるのでしょうか。

副病院長(医療安全管理担当) 高木 康志



ダニエル・デフォー (著)
中山 有 (翻訳)
興陽館 (2020/9/18)



令和4年度新採用職員についてご紹介します



口腔内科 助教
浪花 耕平

令和4年4月より口腔内科に配属となりました浪花(なにわ)耕平と申します。名前から関西出身と間違えられることが多いのですが、出雲大社のある島根出身です。大学は広島大学で、研修医・大学院を大阪で過ごした後、徳島にやって参りました。

この3月に大学院を卒業したばかりで、勉強の毎日ですが、周りの先生方から様々なことを吸収し、徳島の医療に還元できればと思っております。また研究・教育機関でもある大学で、学生や社会にとって少しでもプラスになれるよう頑張りたいと思います。

私生活では、今年の7月に子供が生まれ、日々試行錯誤しながら奮闘中です。子供の刺激になるようなおすすめのスポットがあれば教えていただければと思います。

まだまだ未熟ではありますが、徳島大学の臨床・研究・教育に貢献できるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



整形外科 医員
藤本 秀太郎

令和4年4月より整形外科に赴任いたしました藤本秀太郎と申します。平成25年に札幌医科大学を卒業し、今年で医師10年目になります。専門は脊椎外科です。札幌医科大学整形外科科学講座に所属していますが、徳島大学整形外科 西良教授のもとで全内視鏡を用いた低侵襲脊椎手術やスポーツ脊椎を勉強させていただくため国内留学の機会をいただきました。

生まれも育ちも北海道なため徳島はもちろん四国も初めてですが、整形外科教室の方々、病院スタッフの皆様が親切にしてくださるおかげで、とても良い環境で研修させていただけています。研修期間は1年間の予定ですので、徳島で学んだことを北海道でも実践できるよう精一杯頑張ります。

徳島へは家族(妻、子ども3人)とともに参りました。せっかくの機会ですので休日には四国観光も楽しみたいと考えています。よろしくお願いいたします。



医療技術部
診療放射線技師
北川 純太

令和4年4月より、医療技術部診療放射線技術部門に配属となりました北川純太と申します。以前は兵庫県の総合病院で勤務しておりましたが、スキルアップを希望し、徳島大学病院に入職しました。現在は一般撮影を担当しておりますが、初めて経験するモダリティが多く、先輩方にご指導いただきながら日々の業務を行っております。

私の趣味はゴルフです。休日は欠かさずゴルフをしており、昨年までは競技にも積極的に出場しておりました。プライベートのラウンドでは、何個バーディを取るかというモチベーションでプレーしますが、競技になると何故かパーを拾っていくというプレーになり、攻め方も保守的になることでスコアを崩すことが幾度もありました。気の持ちようで結果が左右されることを学びました。

日々の業務においても、常に患者のことを考えながら、治療の支援となるような医用画像を提供できるよう精進して参ります。至らぬ点も多々あるかと存じますが、何卒よろしくお願いいたします。



手術部 看護師
尾崎 なつ芽

令和4年4月に入職し、手術部に配属となりました尾崎なつ芽と申します。手術中の看護師の役割は主に器械出し業務と外回り業務に分けられており、手術が円滑に進行するようサポートしています。手術部では、様々な診療科の手術が行われているため、幅広い知識や技術が必要となります。

日々業務に従事する中で、患者さんが安心・安全に手術を受けられるようにケアすることの大切さを感じると同時に、自身の未熟さも痛感しています。安全に手術が実施でき、患者さんの不安を少しでも軽減させるために、日々先輩看護師の指導のもとで手術看護を学んでいます。

休日は、趣味である風景の写真撮影やお菓子作りをして気分転換を図っています。

一つひとつの学びを大切に、看護師として向上していけるよう努めていきたいと思っています。



経理調達課 事務員
中野 采美

令和4年4月より経理調達課調達係に採用となりました、中野采美と申します。調達係は、病院に必要な物品及び役務の契約・経理・資産管理等を担当している係で、私は、病院で使用する機器や用具等の支払い処理を担当しています。全ての業務において様々な事を学ぶ機会が多く、大変ではありますが、先輩方から優しく丁寧にご指導いただき、できることが増えるにつれ、やりがいを感じております。

休日は友人とご飯を食べたり、バドミントンをして楽しんでおります。

4月から社会人になったばかりで分からないことがたくさんありますが、少しでも早く仕事をこなせるように日々精進していきます。まだまだ至らない点も多くありますが、事務員として成長していけるように努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。